

# ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医の

カルテ



22



いせ動物病院長  
(射水市戸破)

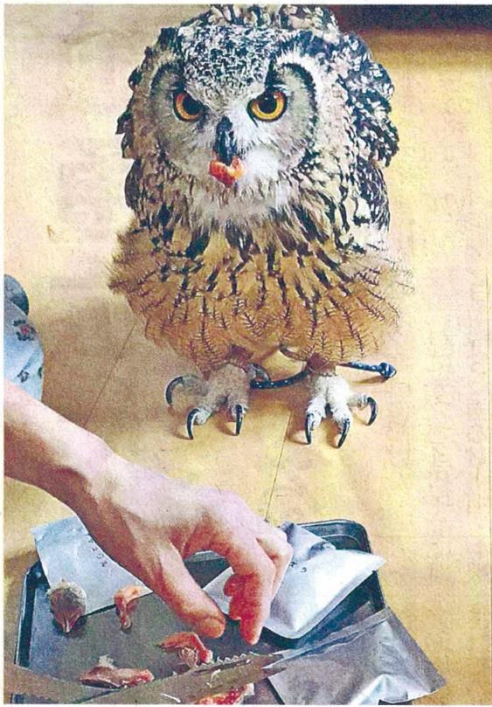
伊勢 哲生

飼育数が多い犬や猫の餌は、栄養バランスや病気の予防などさまざまな観点から商品が出ています。一方、飼育数がまだ少ない動物種には、何を与えていいか悩んでいる人も多いと思います。今回は鳥の餌について紹介します。

一口に「鳥」と言っても、いろいろな種類が存在し、食べる物もそれぞれ違います。セキセイインコやオカメインコなどは穀物を主食とし、ブンチョウやシジュウヤマツなどは雑食性です。猛禽類でも、昆虫などを主食にする種類やネズミや野ウサギなどを主食とする種類があります。

鳥の基礎代謝量は、犬や猫より

## 鳥の餌



肉を食べるベンガルワシミミズク

も高く、小型の鳥になればなるほど高くなります。冬は体温を維持するのに栄養がより多く必要になります。つまり鳥の餌は、犬や猫と同様に成長期や繁殖期といった要因に加え、鳥の種類や換羽期、季節などを考慮して食べさせていかなければなりません。

小鳥の飼い主の多くは、種子類

の混合フードを利用されている人が多く、種子類に不足しているビタミン、ミネラルなどの栄養素をサプリメント、野菜、塩土などで補充していると思います。最近は大のドッグフードのように適切なビタミン、ミネラルを含んだペレットを利用されている方も多くなっています。それぞれの食事には、

メリットやデメリットもありますので、ペットに合わせた物を選んでもらえればと思います。

フクロウなどの猛禽類は、まだまだ食事と健康に関する研究は少ない状況です。成長期には、カルシウムとリンのバランスの良い餌が必要となるのは他の動物と同じなのですが、メインは肉となりま

## フクロウは肉中心

す。猛禽類の餌としては、ウズラやマウス、初生ひなどが購入できます。それぞれメリットがあるので、飼い主の生活リズムやペットの好みに合わせて利用してほしいと思います。

鳥の餌についての情報は、犬や猫と比べて少ないのが現状です。飼い主同士での交流や獣医師への相談などを通して、より良い環境を作っていくようになればいいと思います。